**庄司　力藏 （しょうじ・りきぞう）**

**１、プロフィール**

昭和37年朝日新聞の懸賞小説に応募した「羅城恨」が佳作となり、40年には「靄と渚」で第九回東奥小説賞を受賞。昭和42年から43年まで「安東船」を「東奥日報」夕刊に連載した。

＜生没＞

1926（大正15）年11月25日 ～

＜代表作＞

『安東船』（上・下）『想う如く』「黒い顔の女」

＜青森との関わり＞

田名部町（現むつ市）近川に生まれる。「東奥日報」及び「デーリー東北」に連載小説を発表し、多くの読者を得た。

**２、作家解説**

小説家。大正15年田名部町（現むつ市）近川に生まれた。小学校時代から俳句や綴り方に優れ、「少年倶楽部」に入選した。東京府立第三中学校から帝国商業に学び、この時友人と同人誌を編む。

戦後田名部に戻り、中学校教員となる。昭和22年、俳句芦光社創設に参加。24年、毎日新聞社に応募した「一刻への哀願」が入選。27年、肺浸潤を病み２年近い療養生活を送る。37年、朝日新聞懸賞小説で「羅城恨」が佳作。40年、「靄と渚」で第九回東奥小説賞受賞。42年１月から43年４月まで、「東奥日報」夕刊に「安東船」を連載。

44年今官一主宰の「現代人」同人となる。48年「下北文化」設立同人。49年２月『安東船（上・下）』（津軽書房）刊行、53年「デーリー東北」に「想う如く」を連載、57年津軽書房より出版。58年３月、『想う如く』によって青森県芸術文化報奨を受賞。平成７年11月むつ市文化賞受賞。

**３、資料紹介**

〇『安東船』

図書

1974（昭和49）年２月20日

190mm×135mm

昭和42年１月から43年４月まで､「東奥日報」夕刊に連載したものを、上・下２巻にまとめて刊行した。戦乱の中に生きた３人の女性と、十三湊安東水軍の若き惣領愛季を中心に、下北半島、津軽野にくり広げられる愛憎劇を描いた歴史小説。